まつど地域活躍塾

第１期報告書

まつどをより暮らしやすいまちにするために、

町会・自治会、ＮＰＯ、ボランティア団体など、

地域で**活躍**する人材を育成する**塾**です。

松戸市

matsudo

まつど地域活躍塾について

平成２７年度に実施したアンケート調査によると、市民の約６割が、市民活動に対し「人や社会のために役立つ活動」というイメージを持ち、約４割が、今後「ぜひ、参加したい」または「機会があれば参加したい」と考えています。しかし、実際に市民活動に参加する市民の割合は、約１４％と少ない状況です。一方、町会・自治会やNPO などの団体は、構成員の高齢化や後継者不足など、人材不足に関する課題を抱えています。

市民一人ひとりが、自身が地域社会の構成員としての当事者意識を持ち、自らの経験やノウハウ等が社会に貢献できるように気づき、実際の活動につなげるため、きっかけや機会を提供し、市民活動に参加しやすい環境を整備することが求められています。

そこで、市は、協働によるまちづくりを推進するため、市民が市民活動に参加するうえで、必要な知識や技能を身に付け、地域に貢献する人材を養成する「（仮称）まつど市民大学」の調査・研究を進めてきました。

「（仮称）まつど市民大学」の設立に向けて、幅広い視点から意見を交換し、（仮称）まつど市民大学の方向性等について検討していただくため、学識経験者、市民、関係団体、市職員から構成する（仮称）まつど市民大学設立準備懇談会を、平成２８年７月から１０月までに３回開催しました。

２年の準備期間を経て、修了生に地域で活躍してほしいという願いをこめて名称を「まつど地域活躍塾」とし、平成 29 年６月に開講しました。

第１期（平成29年度）の概要

塾生について

男女比	男性 20 名、女性 13 名　計 33 名
年齢構成	20 代 1 名／30 代 2 名／40 代 2 名／50 代 7 名／60 代 12 名／70 代 7 名／80 代 2 名
区分	松戸市在住 31 名、在勤 2 名
活動履歴	・東京での会社員生活が長いため、松戸でのつながりある組織や人脈もありません。将来、地元の松戸のために貢献していきたいと思い進学を希望します。 ・マンションの管理組合の理事をすることになり、住民の皆様のために役立ちたいと思っています。 ・市の生涯大学講座（延べ４期）に応募して松戸との関わりを体験。 ・高齢化社会の中で、将来お世話になるであろう介護の世界でボランティア活動をしようと、手始めに介護職員初任者研修課程を受け修了した。 ※市民活動団体、町会・自治会、ボランティア活動の経験がある方、活動中の方にも多数受講いただきました。
まつど地域活躍塾で学び、実践したいこと	・今回の講座から「アクション」を起こし、自分をもっとみがきたい。 ・サラリーマン時代には、地域貢献や地域活動などこれっぽっちも意識しなかったが、ここ一年で、さらに愛着を持って暮らしていきたいと感じている。魅力的なまちづくりのために何かお手伝いできないものか。子や孫にも、伝えていけたらと。 ・顔が見えるコミュニティーを作り、地域の活性化を図っていき、子ども達を地域で育てる、高齢者の方々も生き生きと暮らせる、みんなで支え合う地域にしていけたらと思います。 ・ボランティア等で活動しております。しかし地元より離れている為、自分の住んでいる地域に戻って、マンションの住民の役に立てることがないかと考えています。

※人数等は開講時点のもの。活動履歴、学びたいこと、実践したいことは申込書及びレポートから抜粋。

第１期（平成29年度）の概要

年間スケジュール

公開講座	6/30 入塾式・特別公開講座「地域で活躍できる人になるために」
	講師：関谷　昇　氏（千葉大学大学院社会科学研究院教授）
講義・地域の活動	7/7 オリエンテーション・地域の活動①「地域での見守り活動」
	講師：文入　加代子　氏（松戸市社会福祉協議会会長） ゲスト：五番街ふれあいセンター
	7/21「地域防災の連携体制の構築」
	講師：坂野　喜隆　氏（流通経済大学法学部自治行政学科准教授） ゲスト：松戸市危機管理課、栗ヶ沢中学校地域防災委員会、 RKU ファイヤーファイターズ、
	7/28「地域に愛着を持ってもらうためには」
	講師：長江　曜子　氏（聖徳大学児童学部児童学科教授） ゲスト：河原塚史編纂委員会
講義・市民活動	8/4「地域をつなぐコーディネーターの役割」
	講師：阿部　剛　氏（まつど市民活動サポートセンター長）
	8/25「支えあい、助け合いのある地域社会づくり」
	講師：認定特定非営利活動法人たすけあいの会ふれあいネットまつど
講義・活動の担い手	9/1「社会福祉協議会と地区社会福祉協議会の役割を知ろう」
	ゲスト：松戸市社会福祉協議会、矢切地区社会福祉協議会
	9/8「参加と支えあいの福祉のまちづくり～制度ボランティア活動の推進～」／講義のまとめ
	講師：松戸市地域福祉課　ゲスト：民生委員・児童委員／保護司
ワークショップ	9/15・9/22「子どもの貧困について～貧困の連鎖を断ち切るために～」
	講師：松戸市子ども家庭相談課子どもの未来応援担当室
	9/29・10/6「増える空き家の利活用」
	講師：松戸市住宅政策課空家活用推進室
実地体験	10/15 オリエンテーション、団体のＰＲ、マッチングの会
	10～12 月実地体験
	12/17 報告会
フォロー修了式	1/12 今後の活動に向けて①（振り返りのワークショップ）
	1/26 今後の活動に向けて②（個別ヒアリング、活動先へのマッチング）
	2/23 修了式

※当該事業の企画運営に当たっては、特定非営利活動法人まつど NPO 協議会とコーディネート業務委託契約を締結し、共に実施しました。

入塾式・開講記念特別公開講座

6/30 入塾式

この日は塾生同士、塾生と事務局の初顔合わせの会ということで、まつど地域活躍塾のねらい等を説明し、塾生同志の交流時間を設けました。

入塾式の様子

6/30 特別公開講座

まつど地域活躍塾開講を記念して、初回の講義を公開講座として実施しました。

開会にあたり、松戸市長より、塾生への激励をこめた挨拶がありました。

塾生代表者宣誓

代表者宣誓では、塾生を代表して、２名の方に受講のきっかけや抱負を語っていただきました。

宣誓の様子

基調講演

まつど地域活躍塾を開講するにあたり、（仮称）まつど市民大学設立準備懇談会で座長を務めていただいた、千葉大学大学院社会科学研究院教授　関谷　昇氏に、「地域で活躍できる人になるために」というテーマで基調講演をいただきました。

関谷氏より、地域を取り巻く課題、市民、地域、企業、行政など、多様な主体による協働のまちづくりへの転換、先進事例の紹介などを講義いただきました。

関谷氏

アンケートから

- 協働に関する認識が深まった。
- 実例を交えた具体的な話が良かった。
- 地域での活動にむずかしさと解決のヒントが聞けたような気がする。
- 人との関わりについて考えさせられました。
- 先生の熱意がつたわり自分自身の意欲が出た。

講義　地域の活動

7/7①地域での見守り活動

講義

文入氏

松戸市社会福祉協議会会長の文入　加代子氏に、上記テーマで、社会福祉協議会の概要や、主に高齢者を対象とした憩いの場「ふれあい会食会」等を紹介いただきました。

事例発表

新松戸地区にあるマンション「コミュニティ五番街」の住民で組織された「五番街ふれあいセンター」をゲストに招き、ゴミ出し、声かけ、カレーを食べる会等の見守りの取り組みをお話しいただきました。

7/21②地域防災の連携体制

講義

坂野氏

流通経済大学法学部自治行政学科准教授の坂野　喜隆氏に、上記テーマで、協働の背景として、行政需要と行政資源の乖離が生じてきたことや、市民、政府、企業、NPO 等が連携する「ガバナンス」の重要性をお話しいただきました。

事例発表

流通経済大学生による防災サークル「RKUファイヤーファイターズ」から、熊本地震の際に現地で行ったボランティア活動を紹介いただきました。

自主防災組織「栗ヶ沢中学校地域防災委員会」と松戸市危機管理課による協働事業「地域連携自主防災事業」について、両者から発表いただきました。防災は人のつながりが重要であり、防災活動はまちづくりに直結するとお話しいただきました。

7/28③地域に愛着を持ってもらうためには

講義

長江氏

まず聖徳大学児童学部児童学科教授の長江　曜子氏に上記テーマで、自分の得意分野を生かして、地域で活躍出来るよう、近江八幡市や、都営大山団地前自治会の事例を織り交ぜながら、お話しいただきました。

事例発表

河原塚史編纂委員会から、住民が自ら地域のことを調べ、本にまとめあげた河原塚史編纂の過程を紹介いただきました。

講義　市民活動

8/4①地域をつなぐコーディネーターの役割

講義

阿部氏

まつど市民活動サポートセンター長の阿部　剛氏に、上記テーマで、市民活動や NPO についての説明やまつど市民活動サポートセンターの事業紹介、地域の資源をつなぐことによって課題解決を促進するコーディネーターについて講義いただきました。

ワークショップ・グループワーク

コーディネーターとして上手く聞き役になるために、２人１組になり、自己紹介形式で相手のいいところを探していくワークショップを行いました。

グループワークでは､｢自分だったらどんなコーディネートができそうですか。またはしていきたいですか？」を基に、自身の地域で出来そうな活動をグループで話し合いました。

グループワーク

アンケートから

●この塾で来年までの方向性が見えてきました。

8/25②支え合い、助け合いのある地域社会づくり

事例発表

今年で設立 20 周年を迎える「認定特定非営利活動法人たすけあいの会ふれあいネットまつど」代表の佐久間　浩子氏に、有償ボランティアによる移動・生活援助等の「ふれあいサービス」事業の紹介や仕組み、居場所づくりや東日本大震災被災者支援等の取り組みを紹介いただきました。

佐久間氏

居場所づくりを始めてみたいという塾生に対し､｢私は一人ではなかった。まずは勉強会など、自分のできる範囲から動いてみましょう。」と助言されました。

グループワーク

事前課題で考えてきた「日常生活を送る中で､『あったらいいな』と思うサービス・手助け」を共有し、テーマが近い塾生でグループを作り、アイディア出しを行ないました。

アンケートから

●「元気なうちに誰かの役に立つ」同感です。

●同じ興味がある人を集められて良かったです。続けていくと何かできそうな感じがしました。

講義　活動の担い手

9/1①社会福祉協議会と地区社会福祉協議会の役割を知ろう

講義

最初に、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーの仕事の一例を映像鑑賞により学びました。

講義では、松戸市社会福祉協議会職員に、松戸市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会、ボランティアセンターの役割や、松戸市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会の違いについて講義いただきました。

事例発表

続いて、矢切地区社会福祉協議会会長の竹内　等氏から、組織の構成や、お茶の間サロン、ふれあい会食会等の高齢者支援、子育て支援事業「みんなといっしょ」、町会・自治会や民生委員・児童委員との連携についてお話しいただきました。

竹内氏

9/8②参加と支えあいの福祉のまちづくり～制度ボランティア活動の推進～

講義

松戸市地域福祉課職員から、松戸市内で行われている制度ボランティアの種類とその活動内容についての説明をいただきました。

事例発表

民生委員・児童委員として活躍する松戸市小金南部地区民生委員児童委員協議会会長の若林　桂子氏に、普段の活動内容についてお話しいただきました。特に担当地区の相談業務については、若林氏の身に危険が及んだ際の事例を臨場感たっぷりにお伝えいただくなど、実務に即した形でお話しいただき、委員として活動をしたいという受講生もおられました。

若林氏

続いて、保護司として活躍する松戸地区保護司会副会長小川　明万氏に、保護司の活動内容を紹介していただきました。保護司として活動するなかで、苦労していることや、対象者と自宅での面談が必要となってくるため、活動を継続するためにはどうしても家族の協力が必要になってくるなど、活動者目線でのお話しをいただきました。

小川氏

アンケートから

●松戸市内の制度ボランティアがこんなに多くあることを知りました。

ワークショップ

9/15・9/22①子どもの貧困について ～貧困の連鎖を断ち切るために～

講義

最初にワークショップのねらいや、課題設定、課題を深彫りするワークショップ手法の講義を行ないました。

続いて、松戸市子ども家庭相談課子どもの未来応援担当室職員から、国レベルでの子どもの貧困についてのデータや施策の紹介、松戸市における子どもの貧困対策の経過を講義いただきました。

ワークショップ

①予め設定されている３人のペルソナ（活動の対象としたい相手）のうち、１人に絞って過去・現在・未来それぞれの段階でその人の社会的自立を阻むもの付箋に書き出し、模造紙に貼る。

②自分がやりたいこと、できること、資源を付箋に書き出し、模造紙に貼る。

アイディア出し

③活動プラン作成。

④活動プラン発表。

アイディア抜粋

◆子どもと他者がつながれる場（学習支援、遊び場、子ども食堂、イベント、スポーツ指導）の提供

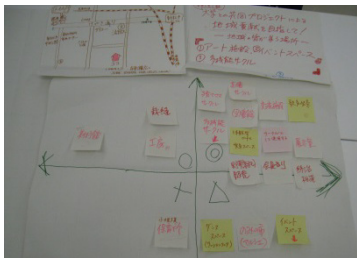
9/29・10/6②増える空き家の利活用

講義

ワークショップの説明を行なった後、松戸市住宅政策課空家活用推進室職員から、松戸市の空き家等の対策と松戸市内の現状について講義いただきました。

ワークショップ

①予め設定された４つの空き家のなかから、自分が活用したいと思う空き家を決め、同じ物件を選んだ塾生６～７名でグループを作成。



アイディア出し

②各グループで選択した物件を活用した活動プラン作成。

③活動プランを基に収支やランニングコスト等を考慮し、現実的に活動を行う方法を検討。

④最終的な活動プランを発表し共有。

アイディア抜粋

◆シェアハウス（格安で学生支援、地域の方との交流）

◆寺子屋（子どもと高齢者の交流）

アンケートから

●様々な考え方、いろいろな話を聞けて楽しかったです。

●実際に運営に携わる実感ができた。

実地体験

10/15 オリエンテーション・マッチング

実地体験に行くうえでの心構えや注意点の共有を行い、その後、実地体験受入団体すべてから、実際に体験してもらう内容を１分間ずつ説明していただき、説明を聞いた後で、各自興味のある団体と直接体験に行く日程等を調整しました。

マッチングの様子

10～12 月実地体験

塾生と一般参加者は、受入団体のもと各自実地体験をしました。

観光ガイド補助

イベント補助

イベント補助

食事会（見守り活動の一環）の補助

多世代食堂補助

実地体験の様子

アンケートから

- ●ＮＰＯ活動を継続していくには、ムリせず、楽しく活動していくことが肝要であると思います。
- ●いろいろな方々が利用する居場所に関わる方々（自分も含め）は誰に対しても笑顔で公平に誠意を持って心からの「おもてなし」ができることが一番。それには、健康が一番であることを痛感する。

12/17 報告会

ワールドカフェ形式で代わる代わるグループワークを行い、自身の体験した活動内容を共有しました。実地体験受入団体からの参加もあり、受入側と体験者の感覚を共有することができました。

その後、数名から実地体験を行なった感想を発表してもらいました。

共有の様子

アンケートから

- ●様々な実地体験を聞いて、皆様がこれまで経験したことないがことに感動したり、感心したりした。
- ●実地体験の総意や各自の日常の関心事の違いが討議で話し合われて、この対話は、楽しく、有意義でした。

実地体験

実地体験受入団体及び体験概要（順不同）

1	岩瀬自治会	「明るく楽しいみんなの岩瀬」をモットーにした交流イベント（ワインの会や文化祭など）のお手伝い
2	栗ヶ沢中学校地域防災委員会	栗ヶ沢中学校地域(小金原地区南側半分)にて、大規模地震災害に備えるために行っている訓練(事前準備含む)や反省会への参加
3	五番街ふれあいセンター	住民同士による高齢者の「見守り活動」の一環で行っている「カレーを食べる会」への参加
4	矢切地区社会福祉協議会	子どもからお年寄りまで多世代が楽しめて活躍できる「ふれあい広場」の運営のお手伝い
5	小金ほのぼの食堂の会	子どもからお年寄りまで誰でも参加できる多世代食堂の運営と、来た人とのふれあいのお手伝い
6	松戸シティガイド・松戸探検隊ひみつ堂	松戸の「観光」を広げるガイドの活動やイベント運営のお手伝い
7	関さんの森を育む会	新松戸に残されている緑豊かな「関さんの森」の保全活動、イベントなどのお手伝い
8	社会福祉法人まつかぜの会とうふ工房豆のちから	障がい者が地域で働き、自立した生活を営む社会を目指している作業所での利用者支援、豆腐製造や販売のお手伝い
9	NPO 法人子育てひろばほわほわ	孤立しがちな子育て環境にいるお母さんたちの支援を行っている「子育てひろば」の運営のお手伝い
10	NPO 法人子どもっとまつど	子どもたちが様々な人と出会い、こころ豊かに育つことができる交流体験や文化体験などのイベントのお手伝い
11	NPO 法人子どもの環境を守る会Ｊワールド	一人ひとりの子どもたちが持っている素晴らしい可能性を広げるための子育て広場や食堂の運営のお手伝い
12	認定 NPO 法人外国人の子どものための勉強会	外国にルーツを持つ小中学生を対象にした、自立のための日本語および学習支援活動の補助、及びおやこ会の運営補助
13	NPO 法人 MamaCan	家族に笑顔があふれることを目的とした、ママを対象としたイベントやママが活躍できるセミナーなどの運営のお手伝い
14	NPO 法人さわやか福祉の会松戸くらしの助っ人	相互扶助の理念で「高齢化社会を助け合って生きる地域社会」を目指して活動している在宅生活支援のお手伝い
15	NPO 法人スマイルクラブ	年齢、性別、障がいのあるなしに関わらずスポーツを通じた健康づくり、仲間づくりを目的とした高齢者健康運動教室のアシスタント業務
16	NPO 法人宅配給食すずな	人が生きるために必要な食を、特に食事作りの困難な方に届ける活動。調理や配達、また安否確認のお手伝い
17	NPO 法人人材パワーアップセンター「わくわくストレッチクラブ」	健康寿命を延ばしいつまでも自分らしく生活できることを目的とした、高齢者運動教室の運営支援、運動プログラムの体験
18	認定 NPO 法人たすけあいの会ふれあいネットまつど	高齢になっても障がいを負っても誰もが住み慣れた街で自分らしく暮らせる街づくりを目指して運営している、ふれあいの居場所のお手伝い
19	NPO 法人まつど NPO 協議会	「市民が自らの手で共に地域をつくる、誰もが暮らしやすいまち“まつど”」を目指して運営している、中間支援に関するイベントなどの補助

フォロー・修了式

1/12 今後の活動に向けて①

塾生自身がこれからどのように活躍していきたいかを考えるワークとして、「じぶん未来新聞※」の作成を行ないました。

グループごとに、今後の活動目標を語り合い、目標へ向けての筋道を明確にした上で、新聞作りに取り組みました。

未来新聞作成の様子

※未来新聞とは、通常の新聞のように、現在や過去の事実について書くのではなく、未来に焦点をあて、将来の理想・ありたい姿等について、新聞形式で書くワークの手法の１つです。

1/26 今後の活動に向けて②

コーディネーターと塾生一人ひとりによる面談を行ないました。これまでに学んできた中でどのようなことがヒントになり、塾生自身がやりたいことが定まったのか、もしくは定まっていないのかの確認を行ないました。

ヒアリングの様子

2/23 修了式

松戸市長から修了証書を授与し、塾生代表による抱負発表、塾生全員による「じぶん未来新聞」発表を行ないました。

修了証書授与

塾生の抱負発表

未来新聞発表

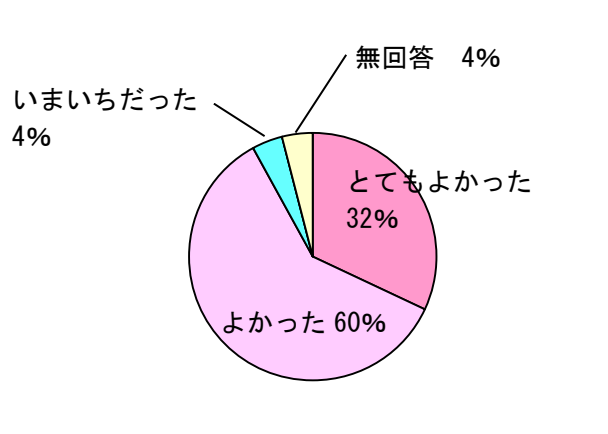
アンケートから

- ●同じ志を持った方々と知り合えた。
- ●座学、ワークショップ、実地体験を経て、地域とその課題を再認識できました。

資料編

＜まつど地域活躍塾に対するアンケート結果（平成３０年２月 23 日実施）＞

本塾全体の満足度はいかがでしたか？

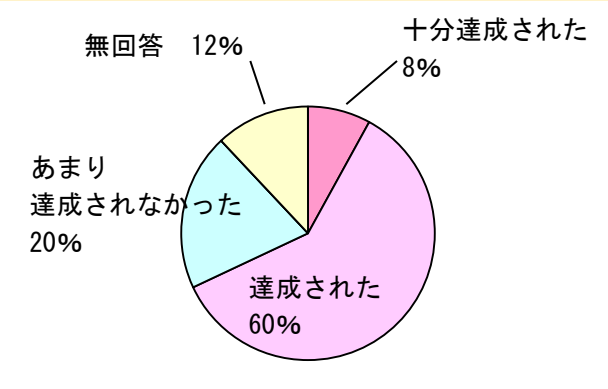


●受けなければ 1 年間同じところをぐるぐるとまわっていたと思います。大きなステップでした。（回答：とてもよかった）

●勉強になったこと、面白いつながりがたくさんあった。（回答：よかった）

●班分けを検討してはいかが。一人でも意見が強い人がいると内容が片寄る。（回答：いまいちだった）

本塾申込時に期待していたことや目的としていたことは、達成されましたか？



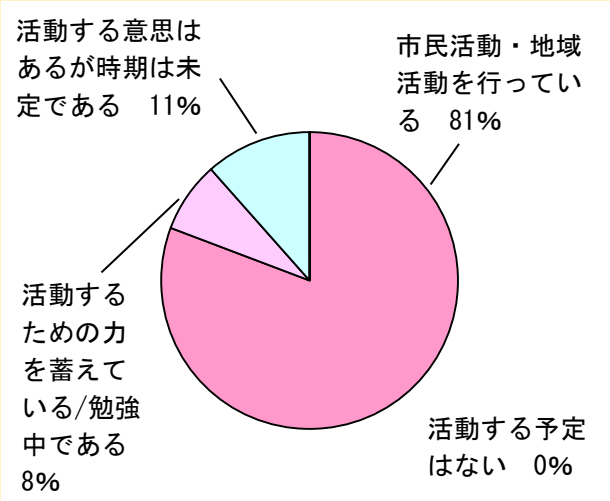
●期待：多世代交流、人のつながり、地域を知る／達成：もちろん達成されました。もっと話したかった！　ということと、今後のつながり継続に期待！（回答：達成された）

●自分の描いていた内容にズレがあった。内容がもう少し精査されているとよかった。（回答：あまり達成されなかった）

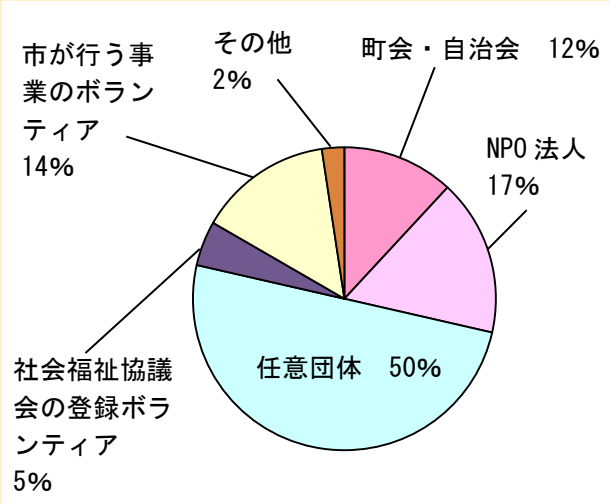
資料編

＜まつど地域活躍塾修了後　活動状況調査結果（平成３０年６月実施）＞

修了式(平成 30 年２月)以降、市民活動・地域活動を行っていますか？



活動を行っている方の活動先（複数回答あり）



まつど地域活躍塾を受講したなかで、今までの活動のステップアップになった部分など。

●自分が知らない様々な活動の実態を知り参考になった。自身の活動との連携が可能なものも多くあり今後に繋げたい。

●地域活動に対して垣根が取り外された。もっと楽しんで気楽に一歩を踏み出せば良いのだと気付いた。

●講義のなかで他地区の町会（自治会）活動状況の紹介・報告があり、具体的であったことから、自分の地区での活動の参考になった。

●今まで消極的であったが、受講したことにより自分で役に立つことならお手伝いしても良いと前向きになった。人のためになることのすばらしさを学んだ。

このような講義内容があったら効果的であると感じた部分など。

●受講生として新たに活動体を立ち上げる（思いを共有するグループ）ことまで指導されると良かった。

●受講生間、そして講師陣・団体との繋がりを助長できる仕組みがあると今後の実際の活動に役立つと思った。

まつど地域活躍塾修了後のアフターフォローついて。

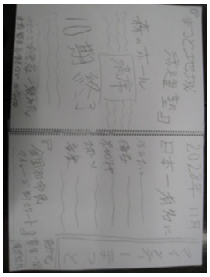
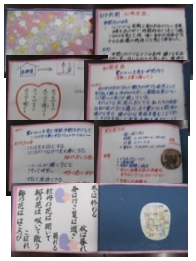
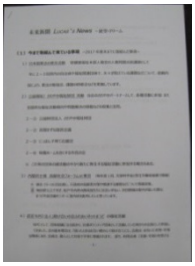
●修了生同士の「つながり」が継続していると心強い。

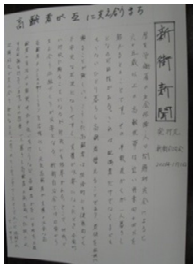
●修了生にも、秋の実地体験に参加できる機会があるとよい。

●定期的なフォローアップがあるとよい。

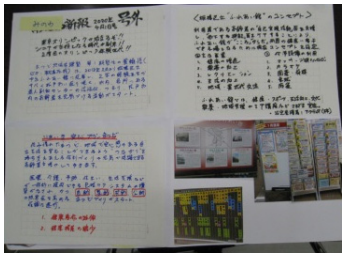
資料編

＜じぶん未来新聞＞



自治会活動を
活発化させたい！



修了生の
活動で松戸が
住みやすい街
１位に！

子ども地域
活躍塾を！

組織をつなげる
パイプ役に
なります！